

生駒市学校教育のあり方検討委員会教育環境向上部会

平成30年度第6回会議 議事録

日 時 平成31年 2月 7日（月） 15時30分～

場 所 生駒市役所 201会議室

出席者

委 員 4名（樋口部会長、高島委員、松嶋委員、伊藤委員）

事務局 6名（真銅部長、辻中課長、城野課長、山本課長補佐、滝澤課長補佐、牧井係員）

1 案件

（1）教育の質の向上に関する現状把握について

①教育の充実（外国語教育・持続可能な部活動の在り方）

部会長 第6回の会議を開催する。本日もよろしく願う。まず、教育の質の向上に関する現状把握について、事務局から説明を願う。

事務局 前回答申いただいた「教職員が生き生きと子どもと向き合う時間創造プログラム」について、教育委員会としてまとめ、先日の校長会で紹介した。答申していただいた内容から取組の順番を若干変更した。プログラム策定の背景の文面についても、少し変更を加えて作成した。内容的には変わっていないが、一度確認しておいてほしい。

部会長 これは校長会で下ろされているのか。

事務局 下ろしている。関連する事業の予算審議が終わってから、公表していく。おそらく4月に入ってからになる。

事務局 <本日の案件「教育の質の向上の現状把握について」に係る資料について事務局から説明>

部会長 大変資料が多いので、すべてを把握しきれないところもあるが、質問等あるか。

部会長 働き方改革の会議も大変だったが、検討課題がはっきりしていた。次からは、どういう形で検討していったらよいのか考えていたが、どの段階でどの様な話をして、どんな形にまとめていくということが見えてくれば分かりやすい。漠然と目の前に出された項目について、検討すればよいというものでもない。全体のタイムテーブルというものはないのか。

事務局 12月に取りまとめていただき、3月に答申いただくということになる。

部会長 何回くらいの部会を考えているのか。

事務局 5月以降、あと6回くらい、全12回を考えている。その中で、教育環境向上に対する対応策をまとめていただけたらと思っている。ワークショップ等も、必要であれば開催できるように予算を考えている。教員や保護者の方も来ていただくことも可能である。

部会長 まとめ方や答申の仕方は、働き方改革のようなプログラムのものが良いのか、方向性を示す形が良いのか。

事務局 方向性を示していただきたい。

事務局 奈良市では、新しい学習指導要領を先行実施する。夏休み一週間前倒しし、授業時数を確保しようとしている。授業時数の確保に関しても、方向性を示していただきたい。

部会長 エアコンと抱き合わせになる。

部会長 焦点を当てるものが毎回出てきて、それに従っていくだけでよいのか、答申までの全体的な流れを起点にタイムテーブルを作らないとだめなのかと考える。

部会長 質問や方向性についてあれば願う。

委員 現状把握として資料をたくさんいただいた。現状に関わって質問を出していけばよいと思うが、「外国語教育」「部活動」「新しい学習指導要領」「学校評価」これらが大きな柱になっていくと感じる。今日の資料の中では、「①教育内容の充実」で外国語教育にかかわる時間数が出てきた。教科の授業以外に行事や教育課程外に充てる時数が減ってくる。学校として、行事の精選に取り組みやすい。すべてを無くすのではなく、10時間の練習を5時間にするなど、行事の取り組み方も工夫した精選が必要になってくると思う。「②授業環境の充実」では、主体的、対話的で深い学びという言葉が出てきたが、ICTの活用についても、言っていた。電子黒板が2校に入っている。それ以外は、大型モニターである。電子黒板ではなく、大型モニターで十分活用できている。しかし、そのためには、タブレット等の充実が必要と感じる。大型モニターは、非常に効果的であった。主体的な学びの授業の形態も変わってきた。

部会長 具体的にご意見をいただいた。新しい課題に向かって1回目なので、いろんなご意見をいただきたい。

事務局 資料を見ていただいて、さらにこんな資料がほしいというものがありましたら、要望として出していただけると、次回準備できる。

部会長 資料は、ありすぎると混乱する

部会長 ALT コーディネーターについて、授業構成についても助言してもらっているようだが、普通の ALT とは違うのか。指導の経験がある方なのか。

事務局 以前京都で ALT をしていた。カリキュラム作りの経験がある。コーディネーターとしての経験はないが、この1年の様子を見てみると、ALT の子どもとのかかわりを見ていただいている。

ALT の資質向上につながっている。教材づくりにも貢献していただいている。生駒市英語教育カリキュラムについても、協力いただいた。小学校1年生2年生用の教材の指導案も作っていただいた。

部会長 統合型校務支援システムについて、詳しく教えてほしい

事務局 先生方の業務改善に向けて導入を予定している。県下一斉に導入しようとしている。国のモデル事業である。県が一本のクラウドを持ち、市町村が繋がっていく。例えば、先生方の出勤の記録をしていく。教材づくりについて、共有フォルダを活用していく。先生方の自由な時間が増える。名簿は、中学校、高校まで引き継がれるため、事務的な時間の削減ができる。クラス替えのデータ、指導要録などにも反映されていく。子どもたちの日々の生活の様子についてのメモ書きにも活用できる。事務処理の時間を大きく削減でき、教材づくりや子どもとのかかわりの時間などに有効利用することができる

部会長 働き方改革の時にこのシステムの話は出ていた。もっと幅の広いシステムが出てくるのかなと思っていた。奈良県と長崎県が遅れているが、進んでいるところは、どんな形で生かされているのだろうか。資料がほしい。

委員 資料8、H29年度 情報化実施状況調査結果（概要）のP.16にある統合型支援システム整備率の資料を見ていて面白い結果が出ている。学力の高い地域と整備率を比較すると、ICTが進んでいるから効果が高いというわけではないように見える。

部会長 能率化にはつながる。

事務局 校務支援システムは、先生方の負担軽減に充てられる。学力向上とは、また別問題である。これをもとに、授業づくりの時間などの確保をしてもらいたい。

委員 資料1の「我が国の教育実践の蓄積に基づく授業改善」、授業を工夫するにも改善するにも、研修会に行くなどの時間がかかる。生駒市では、先生方に時間は保障されているのだろうかと考えている。小規模校では先生方が少なく、研修に行ったときの代わりの先生がいない。研修に行けているのか心配だ。研修に入ってほしいと思う。子どもを引き付けるような授業をするためには、ある程度研修が必要である。そんな時、どうするのかお聞きしたい。

部会長 研修は必要である。そのための現場の環境整備が必要である。

事務局 実際、小規模校は大変である。教務や少人数の先生など、授業のない先生にも入っていただいている。各学校で工夫して、補充に入っている。

委員 生駒市では、教科等研究会などで、すべての先生が自分の専門の教科に入って授業の研修を行っている。研究会で中学校に集まり公開授業していこうということが年1回はするようにしている。しかし、子どもたちの授業がある。全員が授業を抜けていくのは、子どもたちを帰らせなければならないので難しい。参加率が下がってしまう。できるだけ参加できるような工夫が必要である。研究をしようとする会は、市内で作っている。市教委も夏休みにしている。長期の休みは参加しやすいが、普段の中では難しい。

部会長 質を上げるための様々な研修は大事である。役職を引き受けた先生は、出張が多い。人的保障という整備は、予算が伴い難しい問題ではある。しかし、サポートできる教員の体制作りは欠かせない。そういう保障をどういうようにしていくかは大事にしたい。

委員 小学校外国語について、わくわくイングリッシュサポーターの方に年間12時間入ってもらっているが、活用状況について教えてもらいたい。

事務局 すべての小学校の5年生6年生の授業に入っている。

委員 12時間以外は、誰がしているのか。

事務局 ALTが16時間、残りの22時間は学級担任が行っている。学級担任の授業では、デジタル教材で補っている。ただ、そのPCの数は、全体としてまだ足りていない。

委員 ALTと学級担任の打ち合わせの時間が少ないということだが、工夫されている学校はないか。

事務局 ALTの勤務時間があるので、放課後に少し時間ずらしてやっている学校もある。

委員 研修はどうしているのか。

事務局 夏休みにやっている。ALT やコーディネーターが間に入ることもある。

委員 わかりました。

部会長 これだけ小学校で学んできた生徒を受けて、中学校のカリキュラムの中で、どうしていくかということは、研修をしているのか。

事務局 来年度からになる。9年間を見通した CAN-DO リストというものを作った。中学校卒業時の目指す子ども像を掲げ、各学年での到達目標を「〇〇できる」と具体的に示している。それらをどう生かしていくかは、これから研修していくことになる。

部会長 英語教育推進委員会とはどういう組織か

事務局 校長、教頭、現場先生の代表、学識経験者を交えて、9年間の英語教育について月に1回議論を進めてきた。

部会長 他にありませんか。

部会長 部活動等についても課題としてあるが、今、外国語の話が出ている。話題がコロコロと変わるより、絞って話をした方が良いと思う。おおよその流れを作っていたら助かる。

部会長 英語教育に関わって、いかがでしょうか

部会長 小学校時における英語との最初の出会いは、大事にしてあげたい。外国語を大切にすすめていくには、出会いをALTなどで生の英語に触れる機会を作ってあげたい。もっと大事にしてあげなければならないことが、いっぱいあるように思う。

事務局 幼稚園にも年間6時間ALTが言っている。1年生2年生は、英語で話せることを目的にするのではなく、親しむことを目的として設定した。

部会長 全体を通じて授業をするのは、教職員である。予算が伴うが、将来的に専科制にはならないのか。

事務局 1名だけいる。

部会長 それは、トライアル的にやっているのか、制度があってやっているのか

事務局 県からの配置でやっている。

委員 この英語専科の先生は、何年生を教えているのか。

事務局 4年5年6年生を教えている。

部会長 かなりの人数がALTとして回っているが、何人のALTが各学校を回っているのか。

事務局 8名がALTとして回っている。

部会長 8名のALTに行きつくまで、どのような経緯だったのが。

事務局 最初は、国のJETプログラムで1名が派遣されていた。そのあと、委託事業で派遣してもらっていたが、今は直接雇用している。

部会長 任期はあるのか。

事務局 特に設けていない。

部会長 経験のこともあるので、良い方は続けてもらいたい。

委員 授業形態がALTと担任でやっているが、年間計画はコーディネーターが中心に作っているのか。

事務局 3年生からは、文科省の指導計画に基づいている。ALTとの指導計画は各学校で考えてもらっている。

委員 担任がやる中身は、年間計画に組まれているものか。カリキュラムの通りにやるということか。

事務局 その通りである。

委員 先生方自身も発音の不安があるであろう。サポートの方がもっとあったらよいのだが。

事務局 平成32年度の新しい学習指導要領全面実施からは、時数が増える。予定では、ALTを増やしていきたいところなのだが、予算があることなのでわからない。

委員 生の英語に触れさせてあげたい。子どもたちの目の輝きも変わってくると思う。

部会長 電子黒板やいろんな電子化を図っている中で、ビデオなども含めていろんな機器を使って生の英語に触れさせたい。その工夫も大切だと思う。

委員 オリンピックも近いので、せめて短いフレーズでもよいの自分の言葉で言えるようになってほしい。

部会長 子どもたちは、意外と英語だけのビデオを飽きない。英語版のビデオも、嫌がらずに聞いている。子どもは、自然に馴染んでいく。

事務局 各小学校に英語の絵本を配布している。授業の最後に ALT が英語で読み聞かせをする機会も作っている。

委員 大型モニターはあるが、PC が古くて音声が出ない。HDMI 端子のついた PC を配当してもらいたい。

事務局 今後は HDMI 端子のついた PC を配当する。

部会長 意見が止まっているので、今後の話の進め方について、ご意見をいただきたい。

部会長 例えば、今日は外国語教育の充実について意見が出た。これらをまとめて整理し、さらにそれを基に意見は出せると思うが、事務局として描いている流れというものはあるのか。

事務局 現状を紹介させていただいたが、その中から課題が見つかってくる。課題に対する改善策を議論してもらえたらと思う。本日は、外国語のことがあったが、ICT のことや授業改善などにも膨らませてもらったと思う。

部会長 今日のような形で、現状について、外国語だけでなくいろんなところに目を向けていく中で、方向性を整理していきたい。

(1) 教育の質の向上に関する現状把握について

②教育の充実（主体的で対話的な深い学びの充実（ICT 活用等）・プログラミング教育・授業時数の確保・教職員の資質向上）

部会長 ICT 機器活用、プログラミング教育や授業時数、授業への主体的、対話的で深い学びの充実

を図るといった先生方の資質向上など「授業環境の充実」について、ご意見をいただきたい。

部会長 プログラミングの基礎とは、どんな学習をするのか。

事務局 スクラッチのようなプログラミングソフトを活用し、PC から信号機の点滅のタイミングについてプログラミングをする授業ができるよう、活動キットを 1 学級分、市教委で購入した。各校に貸し出して使ってもらっている。

委員 次回プログラミングの資料があれば、出していただきたい。

部会長 授業時数について、小学校で 6 時間目まで授業をすると何時になりますか

事務局 3 時半頃に授業が終わる。

部会長 中学校ではどうか。

委員 下校は、4 時である。

部会長 ほとんどの学校は、同じ時間に下校をしているのか

事務局 3 年生から 6 年生は、だいたい同じ時間に下校している。低学年は少し早く下校する。

部会長 国の方向性は、6 時間で組みなさいとしているのか。

事務局 特に定めていない。15 分×週 3 回のモジュールという方法もある。

部会長 小学校で、毎日 6 時間というのは長くないか。子どもたちの体はもちますか。

事務局 小学校は、学年間で指導内容や進み具合を揃えて授業することが多い。5 時間目の後は、打ち合わせの時間となる。6 時間目が多くなると、打ち合わせの時間が無くなる。

部会長 子どもは、大丈夫か。

委員 昼から体育や音楽を入れ、子どもたちをあきさせないような工夫はされていると思う。

委員 低学年の子がいるが、帰ったら寝ている。

委員 奈良市で、夏休みを前倒し一週間切り上げるという話を聞いた。授業時数を確保するには、

土日は絶対休みなので、奈良市と同じようにやっていかなければならないのかなと感じた。

委員 大阪はすでにされてる。

委員 ただ、その前に働き方改革の一環として、学期ごとの行事を考えていかないと、1週間前倒しにしても意味がない。文化発表会の練習を毎日2時間練習すると、13時から14時間ほど練習に授業時間がとられる。その分の授業は無くなる。授業時間は、しっかり確保していきたい。そのためには、練習時間を短縮する必要がある。それは、行事を簡素化するというのではなく、効率化を考えていくということが大切だと思う。

委員 運動会も随分簡素化されてきたように思う。それでも、見る側は毎年期待して見に行くが、子どもたちは、輝いているように見える。

委員 ソーランは、小学校からやっているもので、時間をかけなくてもできる。そういう工夫が必要である。

委員 時間をかけなくてもできる工夫を、いろいろとやってみたらよいと思う。

部会長 ソーランはそうかもしれないが、違うところに期待をしている方もいる。簡素化する中で、いろんな意見は出てくると思う。昔は、行進だけでも時間をかけて練習していた。行進のように、削れるものは削っていくという精選は必要だ。

委員 そういう行事の精選は、どこが考えるのか

委員 各学校で決める。

委員 授業で練習する以外に、子どもたちが自主的に活動しても良いのではないか。子どもたちの創造性も出てくるのではないか。

部会長 ありがとうございます。案件すべてに触れられなかったが、時間が来ましたので、今日の議案はここまでとしたい。次に向かっての進め方について、事務局で考えておいてもらいたい。

部会長 続いて、事務局からの連絡事項はないか。

事務局 次回3月1日14時から全体会がある。

部会長 この全大会では、どんな形で話し合うのか。本部会として何か準備が必要か。

事務局 部会としては、今日の内容についての簡単な報告で十分だ。

部会長 事務局の補足という形でよいか。

部会長 全体会について、よろしくお願ひします。そして、第7回の部会の日程調整についてですが、どの様な予定になっているか。

部会長 事務局で案を設定してもらいたい。

委員 3月は難しいので、4月のほうが良い。

事務局 3月1日の全体会で決めてはどうか。

部会長 第7回の部会については、全体会の時に確定するというこゝでよろしく願う。

委員 4月中旬以降に願ひしたい。初旬は、学校行事が詰まっております身動き取れない。

部会長 4月ということで調整を願ひします。本日はありがとうございました。